

C E M A
Since 1990-2020

30

日
本
建
設
機
械
工
業
会
3
0
年
の
あ
ゆ
み



一般社団法人 日本建設機械工業会



「日本建設機械工業会30年のあゆみ」は、20周年に発行した
「日本建設機械工業会20年のあゆみ」をベースに、
直近10年の新しい歴史やデータを加えて製作したものです。





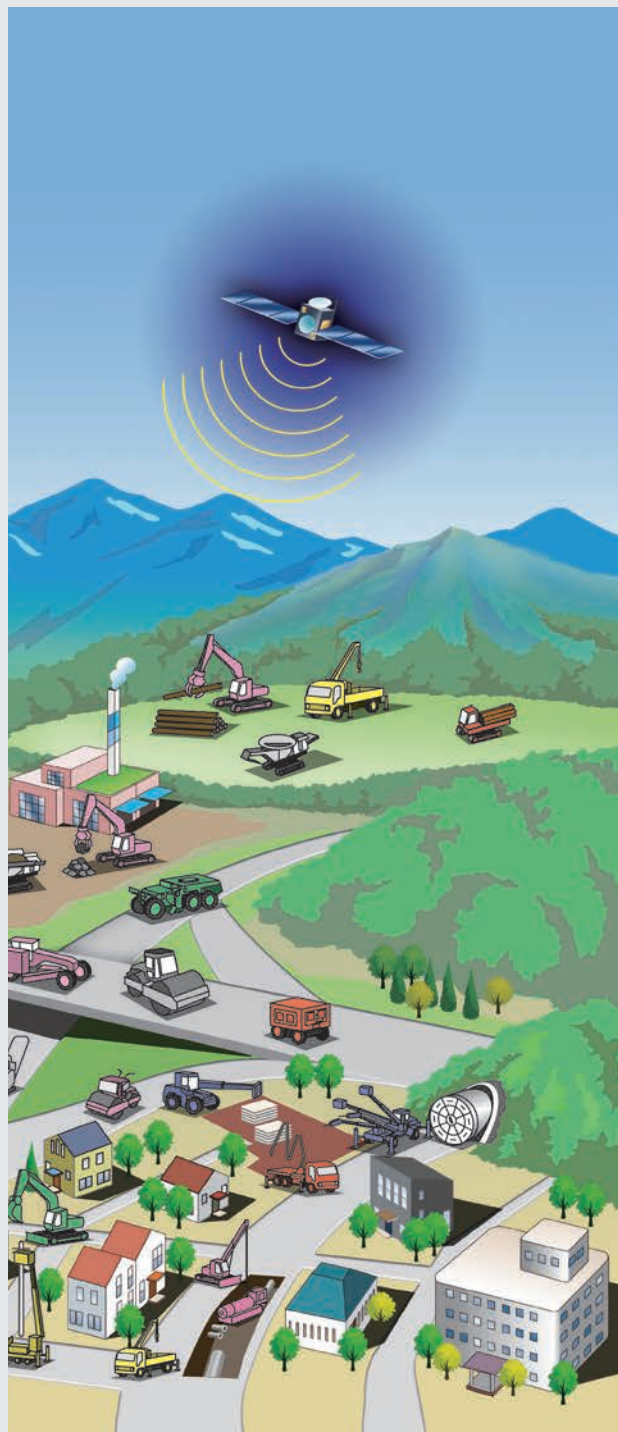
日本建設機械工業会 30 年のあゆみ



index



日本建設機械工業会 30 年のあゆみ



2	発刊の辞
3	祝辞
4	日本建設機械工業会の紹介
6	歴代会長(初代~12代)
8	歴代会長インタビュー(13代~19代)
22	日本建設機械史
48	社会貢献
66	日本の建設機械
100	経営高度化への取り組み
102	建設機械メーカーの変遷
110	日本建設機械工業会30年史(2010~2019)
120	組織体制の変遷
125	建設機械の生産動向
126	建設機械の出荷動向
128	沿革
130	賛助会員名簿
131	会員研修会実績
132	建設機械と建設業界のPR活動
139	編集後記

発刊の辞

一般社団法人日本建設機械工業会(建機工)は、建設機械産業の健全な発展を図り、日本経済の発展と国民生活の向上に寄与することを目的に設立され、2020(令和2)年、設立30周年を迎えることができました。

20周年誌の発刊から10年が経ち、振り返りますと国内外で様々なことが起こりました。とりわけ国内では東日本大震災をはじめとする地震や豪雨による自然災害が記憶に残っています。また、米中対立などに伴う国際経済不安定化の継続に加え、新型コロナウイルスの世界規模での感染拡大による経済活動の停滞局面に直面しています。

このような激しい外部環境変化の中、持続可能な社会の実現に向けて、各委員会を中心に様々な課題に取り組むとともに、環境・省エネルギー・安全といった社会的な要請に対応すべくハイブリッド建機の導入・浸透、ICTやIoTを活用した情報化施工やi-Constructionの推進といった新しい技術革新を積極的に進めてまいりました。

我々を取り巻く環境は変化し続けますが、建機工は設立理念である「調和と発展による世界への貢献」ならびに「共生と競争」のもと、①地震や豪雨による自然災害からの復興への貢献、②環境・省エネルギーに対する対応、③会員各社のグローバル展開支援、④i-Constructionなど新しい技術への対応を重要な活動分野として、会員各企業の皆さまとの連携のもと、建設機械産業の更なる発展と持続的な社会の実現に向け一層の努力を重ねてまいります。

あらためまして、建機工設立30周年を迎えるにあたり、建機工を育てていただきました歴代の会長、会長を支えた歴代の専務理事と事務局スタッフの皆さまおよび会員各企業の皆さまに御礼を申し上げます。

最後になりましたが、内外の関係各位に重ねて御礼申し上げるとともに、今後も変わらぬご指導、ご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げまして、発刊の辞といたします。

一般社団法人 日本建設機械工業会
会長 小川 啓之

祝 辞

一般社団法人日本建設機械工業会が、創立30周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

この30年を振り返りますと、バブル経済の崩壊、阪神・淡路大震災、アジア通貨危機、リーマン・ショックや東日本大震災など経済及び社会の厳しい環境変化もありましたが、貴工業会及び会員の皆様は、変化し続ける経済・社会情勢に対応してこられました。

排出ガス規制や省エネへの対応、建設機械のハイブリッド化・電動化、遠隔監視技術や情報化施工技術の取り込み、労働災害の防止や取引適正化、アジア・アフリカといった新興国の増大する需要への対応など、様々な社会的要請に積極的に取り組まれ、建設機械業界のみならず、我が国の産業の発展に大きく貢献されてこられたことに、深く敬意を表します。

現在、日本の産業は、「第四次産業革命」の中で、大きな変革に直面しております。AIやIoTといったデジタル技術の進化により、新たな製品・サービスやビジネスモデルが生まれ、競争領域が広がるなど、競争環境は劇的に変化しています。また、環境問題やエネルギー制約への対応は、世界的な課題として注目が集まり、産業の競争力にも直結してきています。さらに、建設現場や製造現場の人手不足の問題など、課題が山積しています。

こうした中で、日本の建設機械業界が世界をリードし続けるためには、建設プロセスの効率化・最適化といった更なるサービスの提供や、環境問題やエネルギー制約へ対応する更なる技術革新が不可欠です。中堅・中小企業も含めた裾野の広い建設機械業界の皆様の結束力と果敢な取組により、建設機械業界は今後も発展を続けると確信しております。経済産業省としましても、引き続き、皆様の現場の生の声をお伺いし、それを政策に活かしていきたいと考えております。

最後になりましたが、創立以来30年にわたり建設機械産業の発展に努めてこられた貴工業会の取組に改めて敬意を表しますとともに、新たな時代において貴工業会及び会員の皆様、そして日本の建設機械業界がさらなる飛躍を果たされることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

経済産業省 製造産業局

産業機械課長 玉井 優子

INTRODUCTION

一般社団法人日本建設機械工業会(建機工)は、建設機械を通じてわが国経済の発展と国民生活の向上に寄与することを目的として、1990(平成2)年に設立されました。以来、会員企業各社と協力しながら、健全な流通・サービス基盤の整備、環境安全対策などの課題解決にあたり、わが国経済の発展と国民生活に寄与してきました。これからも、企業活動と環境及び社会との調和を図り、世界共通の企業活動ルールにのっとり、真に尊敬を受け得る価値創造産業を目指し、設立以来の理念である「調和と発展による社会への貢献」「共生と競争」を実現していきます。

主要事業

【運営委員会】円滑な事業運営

- 委員会間の活動の総合調整
- 会員研修会の実施
- 賀詞交歓会の実施
- 政府諸施策への対応と要望
- 工業会全体のコンプライアンス担当
- 正会員・賛助会員事業説明会の実施
- 中小企業等経営強化法の経営力向上設備等に係る証明書発行業務
- 関連団体との連携強化と共通諸課題への対応
- <統計調査部会> 迅速かつ正確な統計調査の実施
- 出荷金額統計、国内出荷台数統計、新車輸出台数統計など自主統計の取りまとめ
- 生産動態統計、受注統計、通関統計など関連統計の取りまとめ
- 世界統計会議に参加し、海外団体との統計に関する意見交換を実施
- 世界統計の集計・整備
- 需要予測の実施
- 中古車流通量調査の実施
- <広報部会> 積極的な広報の推進
- 会長記者会見の開催(2月、8月)
- ニュースリリースの実施(毎月)
- <税務部会> 税制改正要望書の取りまとめ
- <分野別部会> 課題別諸問題への対応
- 環境・安全・規制等、課題別諸問題への対応

【経営高度化委員会】経営の高度化

- 研究会の開催
- 現場見学会の開催
- 経営高度化セミナーの開催
- 海外見学会と事前研修会の開催
- 運営委員会等との交流促進

【国際委員会】グローバル展開の支援

- 日本及び米欧韓中印の友好建設機械産業団体(AEM、CCMA、CECE、CEMA、ICEMA、KOCEMA)からなるIAC会議への参加
- 海外市場動向に関する調査研究・情報発信と国際展示会への参加
- 政府通商政策への提言
- <審査部会>
- 海外情報提供事業に関する提案及び審査

【技術製造委員会】環境、安全、その他技術的課題への対応

- 省エネルギー型建設機械の普及の促進
- <国際規制規格部会>
- 海外の規制規格情報の収集・提供
- <製造省エネ対策部会>
- 建設機械製造業界の「低炭素社会実行計画」のフォローアップ
- 製造現場の省エネに関する検討と省エネ勉強会の実施
- <化学物質規制対応部会>
- 化学物質の調査効率の改善、化学物質規制についての情報共有化
- <次期排出ガス規制対応部会>
- 次の排出ガス規制情報の収集
- 次の排出ガス規制についての会員意見の集約

【流通サービス委員会】健全な流通・サービス基盤の整備

- 盗難防止対策として全国の税関や警察との協力関係の構築
- 統一譲渡証明書制度の普及及び活用の促進
- 中古建機情報NETのフォローアップ
- <サービス部会> サービス活動上の安全に関する検討
- 災害復興事業への貢献ならびに現地サービス対応の安全確保
- サービスマン不足により発生する諸問題への対応
- <クレーン定期自主検査部会> 移動式クレーン定期自主検査者制度の普及促進
- 講師講習と認定検査者講習の実施
- 検査者制度の見直し

【イノベーション委員会】産業の高度化

- 建設機械産業の将来に係わる中長期的な課題についての事業の企画立案
- 建設機械産業の将来に係わる本会の中長期的な事業に関し、各委員会及び会員からの提案・要望の取りまとめ
- 上記の成果を踏まえた政府への要望案等の作成

組織体制

